

船舶事故調査報告書

平成22年7月29日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵 男（部会長）

委員 山 本 哲 也

委員 根 本 美 奈

事故種類	乗揚
発生日時	平成21年9月19日（土） 10時58分ごろ
発生場所	和歌山県船瀬漁港 潮岬灯台から真方位058° 1,700m付近 (概位 北緯33° 26.7′ 東経135° 46.2′)
事故調査の経過	平成21年9月19日、本事故の調査を担当する主管調査官(神戸事務所)ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報	
船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	遊漁船 第一 ^{ひて} 秀丸、5.08トン 252-11576和歌山、個人所有 11.89m(Lr)×2.27m×0.86m、FRP ディーゼル機関、169.17kW、昭和49年12月
乗組員等に関する情報	船長 男性 79歳 二級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和51年4月23日 免許証交付日 平成17年8月8日 (平成23年1月29日まで有効)
死傷者等	負傷 1人(釣り客A) 両上肢、両下肢に全治10日の打撲、擦過傷
損傷	船底にき裂及び破口
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、釣り客2人を乗せ、和歌山県船瀬漁港沖の波ノ浦の釣り場で遊漁を行っていた。 船長は、船瀬漁港で待機していた家族から、台風の影響でうねりが波ノ浦に入り込むようになり、船瀬漁港入り口付近に高起した波が立っているため静穏な串本漁港に避難するよう、携帯電話で連絡を受けたが船瀬漁港に帰航することにした。 本船は、約8ノットの対地速力で帰航を開始し、平成21年9月19日(土)10時57分ごろ、船瀬漁港から100m付近で、船長が、高起した波の合間をぬって港内に進入するつもりで機関を中立にした直後、左舷船尾から波高約5mの波を受け、次いで波高約3.5mの波を受けて波乗り状態となって陸岸に向けて圧流され、10時58分ごろ乗り揚げた。 本事故の目撃者から直ちに串本町消防本部に連絡がなされた。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北東、風力 5、視界 良好 海象：波高 4m 潮汐 下げ潮の末期
その他の事項	船長の海上経験は約60年で、遊漁船の船長となって約28年であった。

分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	あり なし あり 本船は、船瀬漁港に帰航中、台風の影響で同漁港入口付近の波が高起する状況になった際、船瀬漁港への帰航を続け、高起した波を左舷船尾から受けて波乗り状態になり、陸岸に圧流されて乗り揚げたものと考えられる。 船長は、高起した波の合間をぬえば無難に入港できると考えていたものと考えられる。
原因	本事故は、本船が、船瀬漁港に帰航中、台風の影響で同漁港入口付近の波が高起する状況になった際、高起した波を左舷船尾から受けて波乗り状態になったため、陸岸に向けて圧流されて乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。	